

出エジプト作戦

エベネゼル国際緊急基金

「彼らは主のあとについて来る。主は獅子のようにほえる。まことに、主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。・・・わたしは、彼らを自分たちの家に住ませよう。―主の御告げ。―」

ホセア11章10-11節

子らは西からやって来る



子らは西からやって来る

国際



MARKUS J. ERNST
マルクスJ. エルンスト
国際エベネゼル緊急基金会長

今年は、衝撃から始まりました。パリでのユダヤ人襲撃は、フランスやヨーロッパだけでなく、世界の多くの場所にも衝撃を与えました。

EU 海外政策議長のフェデリカ・モゲリーニはこう述べていました。「ユダヤ人の親が子供を学校へ送るのを恐れるヨーロッパは、もはやヨーロッパではない。」

フランスにいるユダヤ人は、もはやそこに住むことはできないと感じています。彼らは殺されることを恐れて、会堂にもスーパーにも行けないのです。彼らは、もうフランスを出て行かなければならないと知っています。パリの事件の被害者の葬儀では、イスラエル首相のルーベン・ラビンが次のように語りました。「私たちは、あなたがたがこうにしてイスラエルや首都エルサレムに帰還するのを願っていたのではありません。ただ私たちはあなたがたに生きていてほしいのです。」

獅子はほえ始めたのでしょうか？私たちは、季節の変わり目に入っているのでしょうか？明ら

かに、「西側諸国」が焦点となってきています。現在の危険な出来事が起こる中、ユダヤ人達は、本当に震えながらやって来ています。しかし、神は彼らのために避難場所を用意しておられます。それは、御自身の土地、イスラエルで

「彼らは主の後についてくる。主はししのようにほえる。まことに、主がほえると、子らは西から震えながらやって来る。・・・わたしは、彼らを自分たちの家に住ませよう。—主の御告げ。—」(ホセア10章10-11節)

す。確かにこれからさらに多くの多くのユダヤ人達が、西側諸国からイスラエルへ帰還することを、私たちは十分認識しています。時と方法は、イスラエルの主権者なる神の御手の中にあるのです。

このすべての状況の中で、私たちは、ウクライナの悪化する危険な状況を見逃しているわけではありません。実際、私たちはウクライナにお





上左:イスラエルへの到着を喜んで歓迎している

上右:1月のパリ大虐殺の後、一致団結を示す

左 ベンジャミン・ネタニヤフ

右 兵士がパリのユダヤ人会堂の扉を護衛する

* © PA Photos in collaboration with Sword Magazine.
** © Jewish Agency for Israel.

いて、奉仕者や経済的支援において、さらに支援を強化しています。長年の間、私たちの主要な働きは、「北の地」(旧ソ連)からユダヤ人が帰還するのを支援することでした。彼らがアリヤーするのを励ますために、私たちは多くのユダヤ人がオデッサからハイファへの渡航するのを無料で提供してきました。また、私たちは彼らにやがて来る危険についても警告をしてきました。それで、多くのユダヤ人達はその機会を受け入れましたが、受け入れなかった人々も多かったのです。しかし、エレミヤ書23:8では、神の選びの民がまず「北の地」から、そしてその後彼らの散らされた全ての地方から集められるという順序が記されています。そしてこれが2番目の出エジプトへとつながっていくのです。

イスラエルの神が、エレミヤ16:16において宣言していることは、神が多くの漁夫を送って神の民を見つけて、静かに連れ帰るが、その後で多くの狩人を送るということです。これは全く異なった状況です。私たちは、変化の時を体験し

ているのでしょうか?私は、今私たちは実に緊急な段階へ入ったと思います。ユダヤ人達だけが命の危険にさらされるようになっていくばかりでなく、イスラエルの神とメシアを信じるクリスチャン達も、さらなる圧迫を受けるようになってきているのです。私たちは代価を計算し、変わることを神のみことばの上に、また神の選びの民とともに立つように、チャレンジを受けているのです。

1月27日に、私は妻のハンナとともに、ポーランドのクラコフで行われたグローバルな祈りの大会に参加しました。アウシュビッツの解放70周年記念大会でした。世界中の死の沈黙と無活動ゆえの結果を思い起こすことは、非常に痛々しいことでした。イスラエルの総理大臣、ベンジャミン・ネタニヤフは、このように述べていました。「ヨーロッパのあまりにも多くの人々は、6百万人のユダヤ人の虐殺からほとんど何も学んで来なかったのです。」

愛する友の皆さん、このことは、聖書を信じるクリスチャンにとってどういう意味を持つのでしょうか?私たちのユダヤ人に対する愛と、イスラエルとともに立つ姿勢が、今後試されるということです。ただの良い言葉と、情熱のない活動の時期は終わりました。私たちは、どのような形の反ユダヤ主義に対しても反対の声を上げて、神の選びの民の慰めと守りのために行動しなければなりません。私たちには大きな機会が与えられています。そしてユダヤ人のアリヤーを支援するという神からの任務が与えられています。イザヤ書49:22には、はっきりと、私たち国々の民に神の民を連れ帰るように主が召しているのです。

ヨーロッパ及び世界各地における現在の情勢は、今私たちが決意を持って行動していくようにと緊急に私たちに呼びかけるものです。この緊急な状況において、皆さんが祈りにおいて、また献金や実質的な支援によって支えてくださっていることを感謝します。私たちは、フランスと国々のユダヤ人が、無事に生きてイスラエルへ帰還してほしいと心から願っています。



キーワード

アリヤー Aliyah :
アリヤーとはユダヤ人がイスラエルへ移住することを表す言葉です。ヘブライ語では、アリヤーは、「上る」という定義の言葉で、エルサレムへ上っていくことを表します。

オリーム Olim :
オリームは、イスラエルへ移住するユダヤ人、つまりアリヤーをする人々です。男性の単数形は,olehで、女性の単数形は olahです。オリームとなる候補者にエベネゼルのチームはコンタクトを取り、彼らがアリヤーをすることを促し励ますのです。



嵐の中で彼らを支援する

フランス



XAVIER DARRIEUTORT
ザビエル・ダリートル
エベネゼルフランス代表

フランスにおける最近のテロ襲撃事件は、特にユダヤ人をターゲットにしたものですが、このことを通して、私たちの国に本当に戦争が起こっているということに気づかされました。

反ユダヤ主義や、2013年から2014年にかけて記録された事件も増加している中で、それに加えて深刻な経済的、社会的、道徳的な危機が訪れています。2014年の夏の事件は、ガザ紛争に続いて起こりました。そしてこのことは、イスラム過激派だけが、「ユダヤ人よ死ね」という恐ろしい看板を掲げている反ユダヤ主義を宣言しているのではないことを示しています。実際、フランス連合や政党の中も、恥ずかしげもなく、イスラム教徒の旗とともに看板を掲げているものがあるのです。

2012年のトゥールーズの殺人事件と、今年のユダヤ人が殺害された事件の間に、ユダヤ人社会の中に、不安感が非常に強まってきました。フランスに住むユダヤ人は、絶えず汚名を着せられ、後ろ指をさされています。彼らがただホロコーストの恐怖について人々に忘れないようにしているだけであっても、彼らは被害者であるにもかかわらず、逆に罪を着せられているというような状況なのです。

昨年の7月から、エベネゼルフランスは、11

0人以上のユダヤ人(うち70人は困窮している子供たち)に支援してきました。そしてその半分以上は、2015年の1月に支援した人数です。最近の出来事によってパリに住むかなりのユダヤ人の家族が、フランスを出ることを決めています。そうであるならば、今後起こる出来事によって、未だかつてないほど多くのユダヤ人達がフランスを脱出することになるでしょう。このことをふまえて、神が力強く働いて私たちを助けてくださるということを信頼して、私たちは準備しなくてはならないでしょう。

このチャレンジに答えるために、チームメンバーを増やし、ボランティアを訓練していかなければなりません。そのために、さらに経済的な必要があります。そして、今後訪れる嵐の中でユダヤ人が、主が待っておられる場所、すなわちイスラエルへ帰還することを支援するためには、何よりも執り成しの祈りが必要です！

上:カシェル商店
ここでテロリストにより、四人のユ
ダヤ人が殺害された。*

フランスのイスラエル大使ヨッシ・
ガルが、今年の2月に汚されたユ
ダヤ人の墓を訪れた。*



どうか、フランスでの私たちの働きのため
にお祈りください。ユダヤ人協会は、今年1万
人のフランス在住のユダヤ人がアリヤーする
ことを予想していますが、実際数は、これよ
りもずっと高い数字となることでしょう。

ウクライナから逃げさる

ウクライナでの現在の危機的状況によって、多くのユダヤ人がそこからアリヤーしています。昨年、エベネゼルは1000人以上のユダヤ人がイスラエルへ帰還するのを支援しました。私たちが最近支援した人々の中に、エドアルドとその妻アンナがいます。

私たちが彼らをテル・アビブ行きの飛行機に乗るために空港へ送った時、エドアルドは繰り返し、「ありがとう!」と言い続けていました。彼らは、私たちの支援に本当に感謝している様子でした。

エドアルドとアンナは、この何ヶ月の間激しい戦場となっていたウクライナ東部の地域であるドネツクで、小さな商売を営んでいました。アンナは以前からアリヤーすることを願っていましたが、夫のエドアルドは、親戚の多くがすでにイスラエル入りしており、また娘と孫娘もイスラエルにいるにもかかわらず、自分の商売があるため、ウクライナを離れることができないでいました。

しかしながら、2014年に変化が訪れ、エドアルドが今までの考えを変える機会が訪れました。彼の商売が倒産し、経済的な困難がやってきたのです。このような状況は誰にとっても辛いことですが、エドアルドは重い血液障害を持っており、薬物治療を必要としていました。

しかしもはや彼は薬を買うことも、定期的な輸血も受けることができなくなってしまったのです。砲撃のために、彼に治療を行っていた医師は彼に時々ドネツクを離れるように言わなければなりません。エドアルドは、その薬がなければ自分の命の危険があると理解しました。それで、彼は、「私たちは、イスラエルへ帰る時だと決心しました。」と言ったのです。

私たちは2回にわたって、彼らのために、ドネプロペトロフスクでアパートを借りました。一度目は、彼らがイスラエル領事との面接を受け、またエドアルドの病院での治療を受ける時でした。そしてその1ヶ月後、イスラエルへ帰還する前に、もう一度治療を受けるためでした。

エドアルドは私たちに言いました。「皆さんの支援と助けをありがとうございました。皆さんの支援がなければ、家族も年配者もイスラエル帰還の準備をすることができません。皆さんの支援なしには、アンナも私もどこへも移動することもできなかったでしょう!皆さんの支援とケアによって、ユダヤ人が帰還することができるようになっているのです。私が思うには、帰還したユダヤ人の90%の人々が、皆さんのような支援があるからこそ、帰還の決断ができたのだと思います。皆さんが、その人道的支援のゆえに、豊かな報いを受けますように!神様の祝福がありますように!」

ウクライナ



TATIANA
タティアナ
ウクライナチーム



エドアルドとアンナは、私たちの支援にとても感謝していました。

皆さんの支援と経済的なサポートにより、さらに多くのユダヤ人がウクライナを出てイスラエルへ帰還することができるようになりました。皆さんの継続的な支援に感謝いたします!



家族がともに住む

モルドバ



PAVEL
パベル
モルドバ地区リーダー

私たちは、今回モルドバからアリヤーするオリームを支援する特権を与えられたことを、主に心から感謝しています。

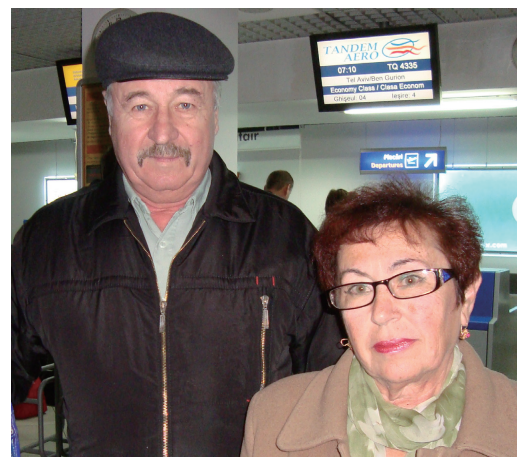
彼らの家族のうち二人はすでにイスラエルに住んでいました。というわけで、今回彼らが帰還することにより、家族がともに生活することができるようになったことはすばらしいことでした。

私たちは、バシリーとクラウディアの帰還を支援しました。彼らが娘とその家族と再会することができるようになったことは、私たちにとっても特別な喜びでした。彼らの娘は数年前にアリヤーしていました。というも、彼女の娘がイスラエルでのナーレ学習プログラムに参加したことがきっかけでした。このプログラムに参加すると、ユダヤ人の十代の青年が、イスラエルで高校の卒業証書を取得することができます。現在は、この三世代の家族がイスラエルで一緒に幸せに生活しています。

バシリーとクラウディアは、ユダヤ人協会やイ

スラエル領事館への訪問のための旅費や、イスラエルへ帰還する飛行機に乗るために、空港へ行く費用などを支援したことを、エベネゼルに本当に感謝していました。

神様が、彼らを召してくださったことゆえに、神様をほめたたえます！



グルジア

忍耐強い祈りは報われる！



SLAVA
スラバ
ジョージアリーダー

ユダヤ人にアリヤーについて分かち合っても、それが芽を出すには時には時間がかかることがあります。

ナティグとザミラに初めて会ったのは、15年程前のことでした。その時彼らにアリヤーするように励ましましたが、彼らは全く関心を示しませんでした。特にナティグは難色を示していました。ジョージアを離れることも両親と離れることもしたくなかったのです。

その後何年にも渡って、エベネゼルチームはこの夫婦とその二人の子供たちのために祈り続けました。そして機会のある毎に、彼らにアリヤーについて分かち合い、神がユダヤ人を召しておられることについて、神のみことばの種を植え続けてきました。

その後、ザミラの父親と兄弟がイスラエルに帰還する決心をしました。それでもナティグと子供たちはジョージアに残っていました。しかし、神の時が来て、私たちが植えた種が芽を出しました！ユダヤ人協会のオリムの名簿に、ナティグと

ザミラの名前が載っているのを見た時、私たちは驚きと大きな喜びで満たされました！神様が、忍耐を持ってチームが祈り続けたこの祈りに答えてくださったのです。主に心から感謝します！



ジョージアのエベネゼルチームが植えたアリヤーのための種がこれから多くの実を結ぶようにお祈りください。

相続権ツアーを通して アリヤーに至る

ユダヤ人の若者のために企画されたツアーによって、イスラエルでの生活を体験する機会が与えられます。ある若者が参加したことにより、その家族全員が影響を受けました。

グレゴリーとナタリアは、私たちが彼らを訪れた時には、二人の息子（フィリップ18歳、マーク10歳）を連れてアリヤーすることに非常にためらいを感じていました。そして、これはよく考えてみなければ踏むことのできない大きなステップだと感じていました。

その後、私たちはタグリット（相続権）ツアーについて聞きました。それは、ユダヤ人協会が、18歳から26歳までのユダヤ人のために企画したツアーです。私たちはグレゴリーとナタリアの長男のことを思い出し、さっそく彼らにこの旅行について伝えました。彼らはとても乗り気でした。そして、フィリップがこのツアーに参加することになりました。

彼がイスラエルから帰って来た時には、全く新しく変えられていました。彼はとても興奮してい

て、両親に彼が経験したすばらしい体験を伝えました。そしてこの事は、彼の家族全員に大きなインパクトを与えました。

それからしばらくして、私たちが彼らのもとへ訪れた時に、グレゴリーとナタリアから、家族でアリヤーするための支援を要請されました。なんとすばらしい知らせでしょう！



フィリップと弟のマーク

ロシア



KONSTANTIN & ALYONA
コンスタンチン&アルヨナ
ハバロフスクリーダー

不可能を可能に！

私たちの人道的支援を通して、私は、特別な必要を持つヤーコフとナタリアから、直接この話を聞くことができました。

彼らの子供や親戚はイスラエルに住んでいましたが、彼らがアリヤーすることはほとんど不可能に思われました。なぜならヤーコフには足がなく、ナタリアも自分の重い病気で苦しんでいたからです。

彼らが住んでいたボルゴグラードのユダヤ人協会はしばらく前に閉鎖しました。それで、モスクワにあるイスラエル領事館に行く旅は、この夫婦にとっては不可能に思われました。その上、彼らのわずかな収入ではどうしても旅費を捻出することができない状況でした。彼らは支援がなければ、イスラエルへ帰還するためのステップを一歩も踏み出すことができない状況にあったのです。

しかし、この夫婦はもうすぐイスラエルにいる家族と合流することができるようになったことを、私たちは喜んでいます。神様が御自身の民を故郷へ呼ばれる時、たとえ問題があったとしても、神様御自身が道を作られるのです！



ヤーコフとナタリアは、もうすぐ帰還します！

ロシア



ALEXANDER
アレクサンダー
ボルゴグラード代表



全ては祈りから

祈り

時を悟る

「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。わたしは、北に向かって「引き渡せ。」と言い、南に向かって、「引き止めるな。」と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。」
イザヤ書 43:5-6

効果的な祈りのための鍵のひとつは、私たちが今生きている時がどのような時なのかを理解することです。そして、主がどのように動かれているかを認識することによって、私たちはより効果的に祈ることができるようになり、神のみこころに沿って祈ることができるようになるのです。上のみことばは、私たちの祈りの土台として用いることができるすばらしい聖句です。
主は、地の果てからユダヤ人を集めると言われます。それには西側諸国も含まれています。そして、西側諸国からのアリヤーの増加は、神様がみことばを成就されていることを示しています。

祈りの課題

- 教会とユダヤ人が、私たちが今生きている状況の現実を知ることができますように。
- 教会が、神の召しを受けてアリヤーを支援することができますように。また、ユダヤ人が神の召しを受けてイスラエルへ帰還することができますように。
- さらに多くの若者達が、エンゲージの働きを通して学び参加する中で、時の緊急性を知ることができますように。主が召している人々がアリヤーの働きに献身することができますように。
- 不安定で危険な国々からアリヤーする人々が、必要な書類を全て準備することができますように。エベネゼルチームの守りのために、また、帰還するオリムのために。

新種のアリヤー

主はエベネゼルのアリヤーの働きを拡大しておられます。多くの国々において、反ユダヤ主義が増加し、政治的状況が変化

しています。それらのことを通して、以前は安定していたユダヤ人社会の平和が乱されており、現在かなり多くのユダヤ人達が、イスラエルへの帰還を求めているのです。

祈りの課題

- このようなユダヤ人達がイスラエルへ帰還するにあたって、主が、彼らを実際的な支援や祈りや経済的な献金などを通してサポートするボランティアを、教会において起こしてください。
- イスラエルが、多くの新しい移民を歓迎する準備ができますように。この国が、オリムがイスラエルに安住することができるように整えられるように、知恵と一致が与えられますように。
(イザヤ32:18、エレミヤ32:41)
- 国々で仕えているエベネゼルチームの者達が、自分が仕える国において主が与えている戦略を明確に理解し、この変化の時に効果的に働きを全うすることができますように。



Operation Exodus (出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の

計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。

エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
Email : e@eefj.org
ホームページ:
<http://ebenezerjapan.org/>
献金の送付先:
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842